

# 培栽肥緑

南部では特に大切

緑肥が土地改良と窒素増加のために大切な事は、本紙でも数回報じた事があるので、知つて居られる人が多しと思ひます。殊に本省南部では、氣候が高温多雨で、土地の有機質が分解流失しやすいため、緑肥によつて土地を保護する事が絶対に必要です。

緑肥を栽培する時に、第一に大切な事は、緑肥の種類と、その特性を知つておく事です。次に、自分の土地の性質と、前後作物の栽培期を考へて、それに適した種類の緑肥を選んで栽培する事です。左に各種緑肥の成分含有量を表にしてみましたから、参考にして下さい。

種類	有機質(%)	窒素(%)	加里(%)
田菁	17.0	0.8	0.1
太陽麻	20.5	0.8	0.1
青皮豆	16.3	0.6	0.1
米豆	19.0	0.8	0.1
印度豆	22.5	0.8	0.1
鹿爪豆	14.5	0.5	0.1

## 緑肥の鋤き込み

一般に緑肥は開花六、七割の時に窒素含有量が最も多く、この頃が土中に鋤き込む最適の時期です。然し本省南部では夏季に、高温多雨のため、緑肥の開花期が延長し、開花

六、七割の頃には、すでに老熟し過ぎて、葉莖部が枯れて硬化し、肥料価値が少くなり、故に、土中に鋤き込む時期は簡単に開花期をもつてのみ標準にする事ができませんから、緑肥の成長程度と、前後の作物の栽培時期を考慮して決定すべきです。普通に緑肥の成長程度を見るには、莖部が少し硬化し、下部の葉片が黄色がかつた時、あるいは作物を栽培する十五—二十日前に土中に鋤き込めば良いでせう、但し水分の乏した土地では、腐爛が容易でありませぬから、一週間ぐらい鋤き込みを早く行つて、灌水をしておきます。なほ、緑肥の鋤き込みを行ふと同時に石灰窒素を施せば、腐爛を促進して、肥効を高められます。

鋤き込みの方法は、各地の習慣によつて異なりますが、普通に深耕犁を用ひて行ひます。ただし注意すべき事は、新鮮な緑肥は分解作用が遅いので、これを鋤き込む時には、一、二日前に録(カマ)で刈り取つて晒乾しておき、莖葉部が、やや萎んだ時に土中に鋤き込みます、もし勞力不足で録を使ふ時間の無い時には、鋤き込みの一、二日前に刈草などで莖部を折斷しておく方法もあります。但し、刈り倒した莖葉が晒乾過度になると、かへつて分解作用が遅くなる事がありますから注意を要します。

## 堆肥舎の修建

☆堆肥は臺灣の土壤に特に必要で、しかも、經濟的にできる肥料です。増産のために、堆肥舎の無いものは、早く修建を申請しよう☆

省政府と農復會では、民國三十九年から、各地の農民に對して堆肥舎の修理あるいは新建を奨励し、その費用の一部を補助して來た事は、皆さんも知つて居られると思ひます。今年に既に五百回で、今まで、この援助によつて建設された堆肥舎は六〇三五棟に達していますから、實に本省の農業生産に有力な貢献をなしたと云へます。然し、いよいよな事情で、今まで堆肥舎補助の申請をしていない農民も多く居るので、今回は何故に堆肥舎が必要か、またどの様に修建したら良いかを説明して参考にしたいと思ひます。どうか、この好機會を逃がさずに、未だ堆肥舎の設備をしてないものは、早く申請される事を希望します。

### 何故に堆肥舎が必要か

(一)本省は高温多雨で、地形が複雑、水流が早く河床が急で、その上、數種の作物を集約的に耕作してあるので、土壤内の有機物消耗が非常に早くとされています。この様に土地の腐植質分が乏しやすいため、常に堆肥で土地を強化しなければなりません。

(二)現在、本省で使用されている化學肥料は、僅に小部分が省産で、約七割以上は外國から輸入されています。故に、堆肥をもつと使用で

きれば、この様に化學肥料を大量に輸入する必要がなく、大いに國家經濟の節約となるのです。その上、將來も國際情勢の變化によつて化學肥料を輸入できなくなつた場合には、堆肥のみによつて施肥しなければなりませんから、今からその準備が必要で

(三)堆肥は屋外でも作る事ができますが、高温多雨な本省では堆肥舎があれば、次のように便利で、例へば、堆肥舎があれば、仕事が便利で、湿度を隨意に調節でき、腐熟作用を促進し、製造期間を短縮し、風雨、日射などの影響を受けないので肥分流失を防止できる等、多くの利點があります。

(四)民國三十九年の調査によりますと、本省には堆肥舎が三十六萬棟あるとされていますが、そのうち二十四萬棟、即ち全數の三分の二は破損して使用不可能なものです。これは農業的に大きな損失なので、政府と農復會は堆肥舎の修建を奨励して、六萬餘棟が修理建設されましたが、残りの約十八萬棟は未だに修建されていません。そして、臺灣の農家戸數は五十六萬戸ありますから、前述の破損した堆肥舎を全部修建したとしても、未だに約二十萬六千戸の農家が堆肥舎の設備が無い計算になります。

### 堆肥舎修建の注意

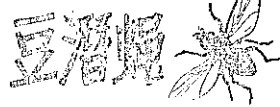
①理想的な堆肥舎は、陽光が直射せず、地下水が低く、通風が良すぎず、地盤が堅固な土地の乾燥した場所にて建てたものです。それと同時

に、水の運搬に便利な場所を選び、豚牛舎と連結して建てると仕事が楽です。

②北風あるいは西風の強い場所に建てる時には、堆肥舎は南向が良く、東南風の強い時には、北向きに設計します。

③完全な堆肥舎と云ふのは、屋根と壁があり、床(ユカ)が堅固で水肥溝、水肥池、窓、門がすべて設つてあるものです。この様な堆肥舎でしたら、上質な堆肥を短期間に製

### 豆科植物の大敵



て最も恐ろしい害虫は豆潜蛾(ササゲクギバヘ)です。この蟲の成蟲は黒褐色の小蠅で、幼蟲は白色の蛆状のもので、卵は作物の葉茎上に産卵され、孵化後は莖の内部に食ひ込んで害をなします。

南部で菜豆(敏豆)あるいは豆の高さに栽培しますと、苗が三、四寸の高さに成長した時に、枯苗を見出す事があります。不思議に思つて、その枯苗を引き抜いてみますと、基部が開裂したり腐つていたりしますが、これが豆潜蛾の害です。更に内部を開いてみると、黄褐色の蛹(サナギ)、あるいは蛆が數十匹も潜んでいるのを発見します。

豆潜蛾は、あらゆる豆科作物を食害しますが、そのうちでも敏豆の害が最大とされています。この害虫の発生時期は、南部に於いては、豆類や蔬菜類の栽培期である十二月から二月の間が最盛です。北部では

造できます。

④堆肥を製造するには、風雨、日射を避ける事が大切ですから、屋根は完全に修理して、人字形に傾斜する様にし、傾斜度は二分一の位が適当です。

⑤堆肥舎の床土が堅固でないと、製造中の堆肥から水肥が地下に滲透流失して、肥效を減少しますから、床地は粘土で強固にすべきです。セメントで床をこしらへれば、最も堅固で、水肥が流失しません。

四五月頃に害が多く、中部では比較的害が少いやうです。鳳山にある熱帯園藝試験場では、民國三十九年から、この害虫の防治法について試験をして來ましたが、その効果的な方法をここに紹介してみませう。

豆潜蛾の防治として、最も有効で、経済的な薬剤は、二五パーセントDDT乳劑(高雄農業化學工廠出品六角牌)と有効成分一〇パーセントのBHC乳劑の二種です。粉劑でも効果がありますが、殺蟲力と安価な點では乳劑に及ばない様です。使用法は乳劑を一千倍にして、敏豆の出苗後三〜七日に噴射を開始し、敏豆の開花時まで二、三回噴射を行います。毎公畝について、使用原液量は僅に〇・〇六公斤で、非常に経済的

なほ、DDTやBHCの乳劑を水で薄める時には、注意して調合しないと殺蟲効果を減少します。調合は、まず乳劑を少量の水と完全に混合させてから、徐々に水量を加へてよく攪拌して使用することです。

⑥床面には水肥溝をつくり、堆肥中の過剰水肥が水肥池に流れる様にします。

⑦堆肥舎の大小は耕作面積によつて決定しますが、少くとも四坪以上は欲しいものです(山地や澎湖縣の如き特殊な場合には二坪以上でもよい)。次に、堆肥量と養豚数により堆肥舎の大小を表にしましたから、参考にして下さい。

耕作面積(公頃)	堆肥量(公公)	養豚数(頭)	堆肥舎(坪)	豚舎(坪)
1.0	15000	2	4	2
2.0	30000	4	8	4
3.0	45000	6	12	6
4.0	60000	8	16	8
5.0	75000	10	20	10
6.0	90000	12	24	12

⑧堆肥舎の地面の形は、三對一の比率の長方形であつた方が、堆積やその他の仕事に便利です。

⑨堆肥舎の壁は、地點と農家各自の經濟によつて、全壁か半壁を決定します。全壁の場合でも、下半面をセメント或は煉瓦で硬壁に作り、上半面を軟壁にする事ができます。⑩門の規格は、寬さ四臺尺、高さ六臺尺が普通で、通氣窓の位置はなるべく高所にし、できれば中樑の下面に設置すると良い。普通に門と窓は各一つで充分で、多すぎない方がよい。

⑪堆肥舎の建築材料は、その地方の特産物と農家經濟によつて決定します。屋根には瓦(紅瓦、セメント瓦)、稻ワラ、甘蔗葉、茅草、竹

等を使用し、草類を敷く時には厚さが五臺尺以上必要です。なほ、屋内の温度劇變を防ぐために、屋根には亜鉛板を使用しない方がよい。壁の下面四五臺尺の部分は、できればレンガ、卵石で硬くするか、或は土角を積んで上からセメントを塗れば丈夫です。  
註：堆肥舎修繕の圖は七、八、九頁を参照。

### 農業小智識

△風の強いところの麥作では、風害を少くするためには畦の方向は風向に直角にするとうよと云う。  
△三四年も自家採種の麥種子を使うと生産力が弱くなるから、時々更新する必要がある。  
△麥には冬の寒さに逢ないと出穂しない性質があり、この性質の多いのを秋播性、少いのを春播性品種と云う。  
△暴風警報があつたら、出來だけ深く田に水を引いておくと、稲のゆれ方が少ないので幾分風害を少くすることが出来る。  
△ホリドール中毒のときは、醫者が來る迄に、濃い濃鹽水、カラン水を飲ませて胃中ものを吐出させてから安靜に臥床さす。  
△日本蠶研の田島博士は、この程X光線を蠶兒に照射して、雑食性の蠶を作る事に成功した。  
△この蠶は僅か六頭であるが、桑の代りにフダンサウ(赤葉)で飼育したところ順調に發育、上簇し、しかも出來た繭の質は普通のものと同じと云う。

# 天冷談「傷風」

天氣涼一點，得「傷風」的人漸漸多起來了，稍不當心，就會惹上了它，輕的還好，咳幾聲就沒有事，重「傷風」使得您幾天不舒服，頭暈腦漲，畏寒發熱，全身疲倦，鼻子塞得難受，喉嚨也沙啞着，還有流不盡的清水鼻涕，咳不完的黃痰！

## 傷風的麻煩！

醫學上來說，傷風是人體內上呼吸道黏膜上的發炎症狀。上呼吸道包括鼻腔，咽喉和氣管，這些地方表面的黏膜上，都有一層細細的纖毛。當我們吸氣的時候，難免沒有髒東西跟進來，可是它們就被這些纖毛擋住，纖毛本身不停地顫動，將那些髒東西連同粘膜分泌物，漸漸運送出去。吐痰！可是，受了涼後，這些纖毛的顫動就得很慢，髒東西不能如理想地運出去，因此許多毒性的微生物也將停留在黏膜上，發生刺激作用，引起嚴重疾病如肺炎等。尤其在飢餓，過度疲勞，失眠和便秘等情況下，身體的抵抗力減弱，微生物們更容易侵入，時常會傷風。

## 預防的原則

患傷風的人常常很多，我們決不可能絕對避免和他們接觸。因此，預防傷風祇得從「不着涼」這方面着手：  
一、衣着宜鬆暖，不可太厚，免得身體出汗而招致傷風，尤其是衣服時穿時脫，更易着涼，此點小孩尤需注意，做母親的必得當心孩子衣服是否穿得太多或太少！  
二、運動後，揩乾身體，馬上穿起衣服。注意天氣和室內外溫度的變化，隨時增減衣服。

## 三、保持身體各部的乾爽

足部受涼，所以不能赤足在濕而冷的地上工作，以免受涼，而易引起傷風。



## 四、臥室和起居室的通風良好

時，夜間入睡時，蓋好被褥，打開窗戶，用鼻呼吸。



## 五、少入公共場所，保持皮膚清潔，並宜常用冷水洗澡或洗面，按時通便，注重個人衛生等。

## 有傷風特效藥嗎？

治療傷風，都是在減輕這些嚴重的症狀，用些化痰、止咳、退熱和發汗的藥物，使患者覺得舒適而已！千萬不可迷信「傷風特效藥」，更無須乎吃什麼「靈藥」！  
最要緊的是使患者得到合適的休息，盡量多喝開水，戒除烟、酒和刺激性的食物，日光浴和溫水浴，室內溫度的適宜和通氣，週身及足部的保持溫暖等等。

# DDTの使用法



DDT (ダイテイ) が一種の殺蟲劑である事は、誰でも知つて使すが、これは効果的に使用する人は少いようである。例へば、DDTを蚊の居る場所に少し噴射するだけで満足する人がありますが、これは全く浪費で、少しも効果がありませぬ。DDTの性質を知つておくことです。

普通には、DDTの毒作物殺すものと考へられて、DDTの薬効と臭ひとは關係がありません。粉劑、乳劑、油容劑など、すべてのDDTは、昆虫と接觸した時に、滲透して殺すものです。そこで、DDTを使用する時には、次の様に散布して下さい。

① 液體のDDTは、噴射の初めは藥臭が非常に強いので、これを散布しても蚊等は逃げ去つて、なかく殺蟲できませぬ。DDTの効果が實際にあらはれるのは、二週間から六週間後で、その時に成る薬臭が無くするので、蚊が壁などに停死する時にDDTと接觸して中毒死するのです。故に、DDT液の使用法は、常時から壁やタンスの隙間、暗い場所、そのほか蚊の集中しそうな場所に噴射しておくのが最も効果のある方法です。蚊に對しても同じ様

# 果物の王者

## 木瓜

果物を豊富に産する臺灣でも、木瓜は營養と風味の點から云つて最優秀のものでせう。その營養價を他の果物と比較すると、ビタミンAは石榴(ザクロ)の八倍、バナナの四倍、鳳梨の十倍あり、ビタミンC含有量は石榴には及びませぬが、鳳梨に比較すると三倍、バナナの五倍もあります。その上、木瓜には、他の果物に見られない、木瓜酵素と呼ばれる要素を含んで居り、これが消化劑として非常に効果があつて食後に食べる

と消化を助けます。この外、木瓜は腸を潤滑にする作用があるため便秘症の人によく、また婦人にはお乳の分泌を増しますから、實に萬人向きの果物と云へます。



偏食の治方  
偏食は一般に神の性質の子供に多いものです。その原因としては、離乳期に子供の好きなものだけ與へたり、間食が過ぎたり、両親の偏食を眞似(マネ)たり、親がまずがつてみせたり、お腹を痛くした爲に嫌ひになつたり、この様にイロ／＼な原因で偏食の癖がつくのです。これを治すには、忍耐強く、長時間にわたつて行ふことです。例へば、子供を甘やかさない様にして、嫌ひな食物でも一日に少しづつ與へて慣れさせる事です。また、好きな食物に混ぜたり、色や形を變へてみたりするのもよいでせう。